

請負業界を顧りみて

鹿島組々長 鹿島 精一
鹿島組々長 鹿島 精一

私は明治三十二年に大學を出て鐵道作業局に入り、工務課長大屋權平氏の世話で八ヶ月程鐵道工事の見習をやりました。東海道の馬入川を複線にする工事であつたが、見習と言ふ丈けで責任のない職務であつたから直に鐵道を止めて、父の處で請負業の第一歩を踏出したわけです。それ以來三十三年間一日の如く請負業に没頭してゐますが、其當時の請負業者で今日まで營業を續けてゐるのは大倉土木會社さんの外は實に少數しか残つてゐません。それ程此の請負業と云ふものは波瀾に富み、盛衰の甚しい事業なのです。

請負業の盛衰する其原因は世の中の景氣の盛衰によるのであります。不景氣になれば政府事業も民間事業も衰へますから、今まで人を増して澤山の仕事をやつてゐた人も急に事業を縮めなければならなくなる。而して今日の如く請負工事が少くて、請負人の數の多い時には、仕事が出来ると血で血を洗ふと言ふ様な不祥の事まで生ずるのです。

一方から考へるとそれは請負業者が餘りに多數亂立した結果でもある。請負業は他の製造工業など、異つて工場設備も要せず、機械設備も要せず、所謂徒手空拳でドシタタ新しい人が業者となれますから、何うしても亂立し易い。然し大部分は最初は緊張して仕事をやるが、直に怠慢となり、仕事に不熱心となり、仕事の出来も悪くなつて、遂に破滅する者が多い。

世間一般の生産工業方面を見ますと、セメント業でも、製鐵業でも其他各種の方面に夫々の同業者間の統制がとられてゐて、産業上の損害を防止する事に努めてゐます、其他の商品にしても政府から不當廉賣を防止してゐる有様であるが、請負業者間には統制がとれ

てゐない。若し一部の業者間に協定が出来て仕事を請負ふとすると、それが所謂談合になつて不當呼ばはりをされます。

それ故に何うしても一つの工事が出ると多數の請負人が集つて無謀な競争入札をする其結果落札しても無理な見積をしてゐるから下請の人夫賃を拂はないとか、材料を悪くするとかして、到底良き工事は出来ません。此は商品の不當廉賣以上に社會に害毒を流すものであります。私達も三十年來此等の問題を改善進歩する爲に闘つて來ましたが、目下業者間にも相當纏つた改善案が研究されつゝありますから、遠からず其具體案も發表される事と思ひます。

私が土木事業に入つてから最も變遷のあつたのは大學出の立派な技術者が民間業界に多數となつた事であります。私達が大學を出た頃の民間には僅かに一人か二人の大學出の技術者しかゐなかつた。たまに入つて來ても永續きはしなかつた。然るに今日では民間業界に勅任技師級の人だけでも相當の數があり、單に大學出の人は百人以上も居ると言ふ狀況であります。

それから三十年間の私の請負業の間に唯一回、私が最も理想に合致した仕事をして、企業者も請負者も共に完全な仕事を經濟的に竣工さす事が出来たものがあります。それは昨年竣工しました北海道の留萌鐵道の工事であります。此工事は同會社々長松本健次郎氏の人格の致す處と思ひますが、大體の豫算を決定して、測量から設計施工の一切を委託されたものであります。同會社としては監督費其他事務費などが省けたばかりでなく、仕事が大變立派に出来たと云ふので感謝狀まで下さいました。(五月八日)